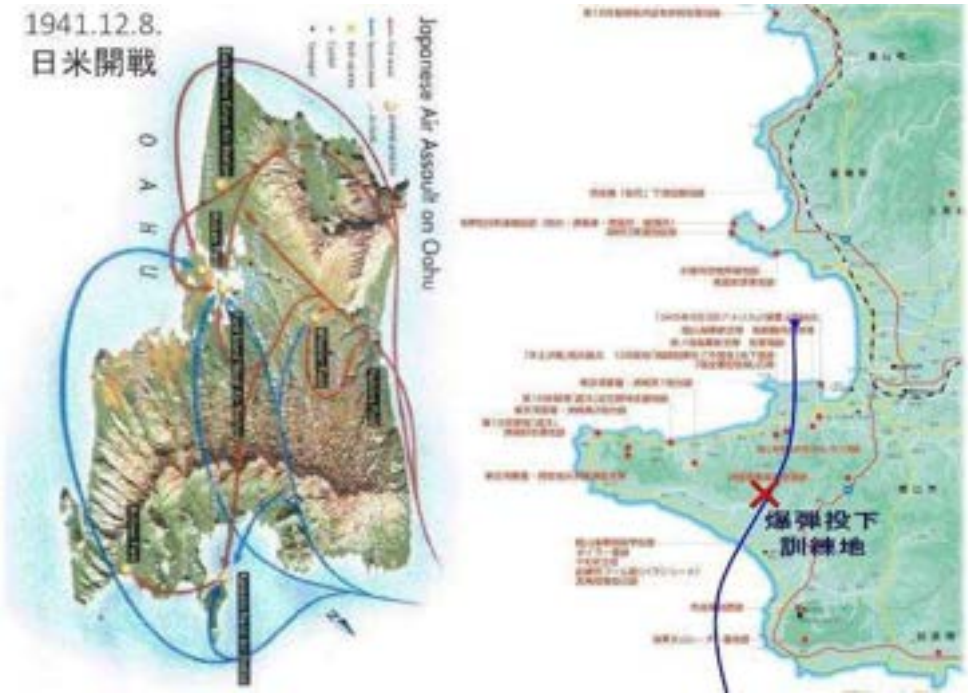
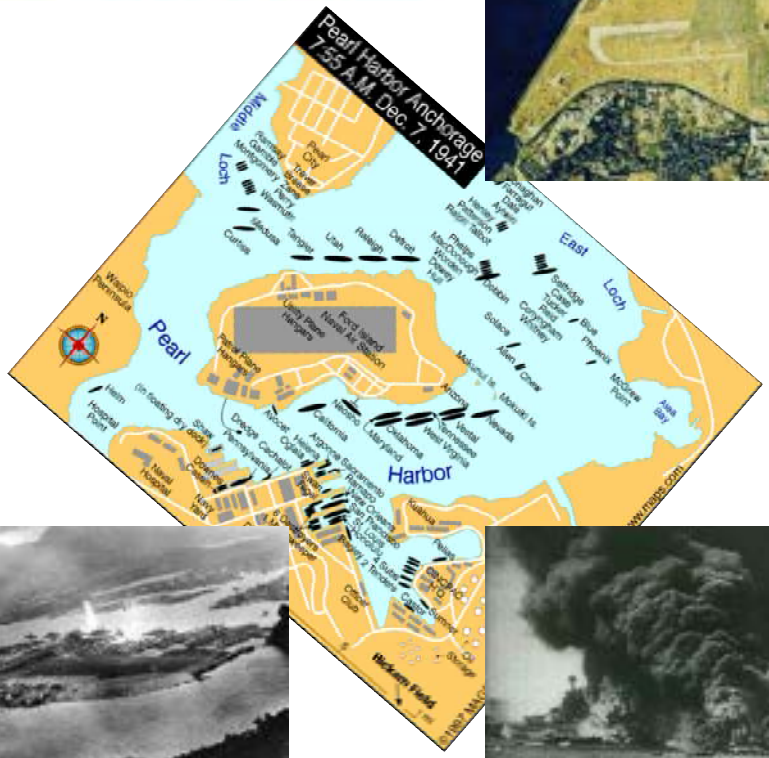
ハワイ真珠湾攻撃と館山海軍航空隊

1941年12月8日（ハワイ時間12月7日）、オアフ島真珠湾にあるアメリカ海軍の太平洋艦隊と基地に対して、日本海軍は航空機および潜航艇で奇襲攻撃をかけて勝利をおさめ、日米開戦となった。1939年に連合艦隊司令長官に就任した山本五十六は、かなり早い段階から真珠湾攻撃を想定していたといわれる。



関東大震災後、館山湾を埋め立てて1930年に開隊した館山海軍航空隊（通称「館空」）は、航空母艦での離着陸操縦に優れたパイロットの養成に力を入れた。艦上攻撃機パイロットたちは太平洋側から進入して、平砂浦の砂山を爆弾投下目標と定め、谷間を低空で館山湾内に向かう訓練を毎日していたという証言がある。

館山湾内の航空基地と真珠湾内にあるフォード島は、南北1km東西2kmでほぼ同じ面積で、房総半島南端とオアフ島の地形は似ており、海軍は基地建設の段階から、平砂浦にある砂山周辺の用地を買収している。上右図のルートのような訓練を続けたのは、真珠湾を想定し10年にわたってパイロット養成をしたのではないかと、NPOでは仮説を立てている。



製作：1942年12月3日　企画：大本営海軍報道部

真珠湾攻撃の翌1942年、実写と特殊撮影による戦意高揚映画『ハワイマレー沖海戦』（演出：山本嘉次郎、撮影：円谷英二）が制作された。

館空で訓練を積んだパイロットが、実戦で真珠湾攻撃に参加し、作品の監修に関わったと推察される。

本土決戦に備えて

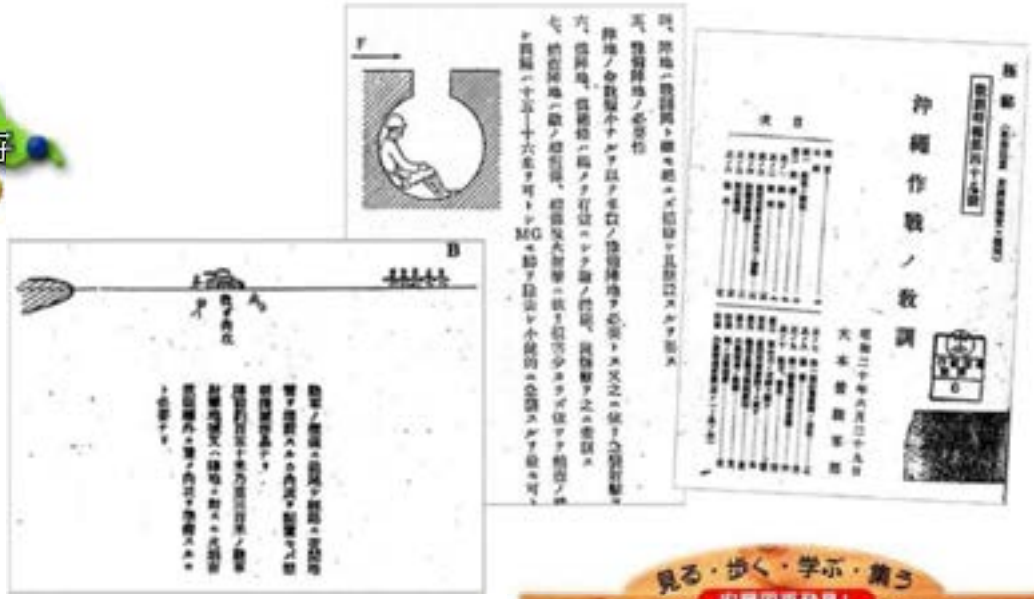
アメリカ軍が第二の沖縄戦として立案した本土侵攻計画「コロネット作戦」は、その中心地が館山を指している。千葉県と沖縄本島を同じ縮尺で並べると、南北の距離がほぼ同じであり、沖縄南部戦線には約11万の日本兵が送り込まれ、房総南部には約7万の兵士が配備された。 敵上陸を阻止するための頑強な陣地などの抵抗拠点はじめ、特攻艇「震洋」・人間魚雷「回天」・人間ロケット「桜花」などの特攻基地が次々と作られた。

沖縄戦終結から1週間後、大本営陸軍部では『沖縄作戦ノ教訓』という極秘資料をまとめており、蛸壺や塹壕に隠れた特攻要員による「肉攻」なども指示されている。

安房地区の「本土決戦の作戦配備計画」図で、外房沿岸にかけて記された「偽陣地」とは、農民たちにも本物と思わせて偽の陣地を作らせ、敵の艦砲射撃を集中させて決戦部隊を温存させる水際作戦である。国民義勇戦闘隊を組織し、「偽」陣地の「偽」兵士として投入する計画があったという。

沖縄本島

千葉県



見る・歩く・学ぶ・楽しむ
安房国再発見!
館山まるごと博物館